SURE 静岡大学学術リポジトリ
Shizuoka University REpository

附属静岡小学校での水琴窟

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 静岡大学教育学部 公開日: 2013-04-12 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 西村, 昌子 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10297/7138

附属静岡小学校での水琴窟

ＮＰＯ法人ブンテック代表　西村　昌子

この度は小学生の皆さんに「水琴窟」を聞いていただく機会をいただきありがとうございました。又、一人一人がそれぞれに滴の水の音を聞きわけ、擬音語などで記していただいたアンケートも拝見しました。ありがとうございました。

豊かな現代に育っておられる小学生の皆さんの感性や行動力に新鮮なエネルギーを感じ、言葉を交わしながら一緒に行動できたことは貴重な体験でした。

日本の音研究所（現・日本水琴窟フォーラム）のご好意で、１０年程前、初めて地域の幼児や高齢者がいっしょに卓上水琴窟を使って「水滴の音」をきかせていただく機会がありました。その時、高齢者と幼児には聞き方の姿勢やイメージすることに大きなちがいがあることに気づきました。中でも、普段は先生の制止の言葉にもかかわらず落ち着きなく動き回る幼児が、「水琴窟」の音を聞きはじめたらにっこりと穏やかな表情に変わり、静止状態になる場面がありました。大人たちはその表情に感動し注目しました。

一方高齢者は水琴窟を囲んで、「水」をテーマに一人が語りだすと、初対面にもかかわらずとめどなく話が続くようでした。そして私は、子どもの頃父に対して反抗心を募らせたあらしの海に飛び込んだ人命救助の話、カツオの一本釣りをしていた漁師時代の話、小笠原で雨水をためて使った生活の話など思いだし、父の背景にあった生活環境や人生観、それを受け止める子供時代の私の生活環境などについて考えるようになりました。

それからは機会があると子どもたちと一緒に、「水琴窟」を聞いたり伝統音楽を楽しむ会に参加させていただいていますが、生活感覚の違いや子供たちの繊細で豊かな感性と表現力に驚いたり感動したりの連続です。

今回も授業終了後に、一人の生徒さんが杓を使って「あっ、こんな水の音ができた！」と「音」を作っている場面があり、新しい何かがはじまりそうな気がしました。

小西先生の「五感を働かせ、体と頭を使って試行錯誤を積み重ねて自己表現」の学習環境づくりの企画に次世代社会のエネルギーを感じさせていただきました。

私は同世代やもっと高齢な地域の先輩たちにまちの歴史を学びながら、仲間と体験を語り合ったり、時には創作音楽物語などの表現活動を試みたりして「まちの総合学習」で世代間が協働してまちづくりに参加できるよう模索することを楽しみたいと思っています。